

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：32702

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17H00982

研究課題名(和文)リカードウ・マルサス論争と古典派経済学の展開：その交錯と対抗および現代性の研究

研究課題名(英文)The Malthus-Ricardo debate and the development of classical political economy

研究代表者

出雲 雅志 (Izumo, Masashi)

神奈川大学・経済学部・教授

研究者番号：10211731

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 24,100,000円

研究成果の概要(和文)：18世紀末から19世紀前半の英仏古典派経済学がその後の経済理論と経済思想に及ぼした影響は、一般に考えられているよりもはるかに広くて深い。リカードウとマルサスを中心とする古典派経済学は、歴史研究の対象であると同時に、近現代の主要な経済学者の着想と理論・思想の形成に影響を与え、貧困、格差、飢餓、食糧、自由貿易、金融、財政といった、いまなお経済社会が抱えるさまざまな問題の分析に重要な視点と枠組みを提供しつづけている。今日の経済学にとって、古典派経済学は経済社会が直面する困難を考察するのに必要な索引であり、新たな世界を開く鍵となる。それは現代に生きる理論であり思想なのである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

リカードウ・マルサス論争を基軸とする古典派経済学の展開を跡づけ、その現代的意義を国際的な共同研究によって総合的に解明しようとする研究は、これまで国内外のどこにおいても行われたことがない。その後の経済学の主要な理論と思想の基盤を提供したリカードウ・マルサス論争の争点は、古典派経済学の確立の指標であるだけでなく、人口問題と食糧生産、通貨・金融危機、グローバル化と経済統合、貧困と格差、移民と難民、統合と排除といった現代の経済学が直面する諸問題の考察に新たな視点と知見をもたらす源泉でもある。

研究成果の概要(英文)：The influence of British and French classical economics from the late 18th century to the early 19th century on subsequent economic theory and thought is far broader and deeper than is generally considered. Classical economics, centered on Ricardo and Malthus, is the subject of historical studies, but it also had a significant impact on the ideas of major modern economists and the formation of economics itself, and continues to provide important perspectives and frameworks for analysing the various problems facing today's economy and society, such as poverty, inequality, and hunger, and various issues surrounding food, free trade, money, and public finance. For today's economics, classical economics is an essential point of reference for considering the difficulties facing economies and societies and a key that opens up a new world. It is a set of theories and ideas that remain vital in the current era.

研究分野：経済思想史

キーワード：マルサス リカードウ ミル 古典派経済学 人口論 貧困 自由貿易論 保護主義

1. 研究開始当初の背景

(1) マルサスとリカードウを中心とする古典派経済学は、歴史研究の対象であると同時に、現代の主要な経済学者の着想と経済学形成に影響を与え、いまなお経済社会が抱えるさまざまな問題の分析に重要な視点と枠組みを提供しつづけている、現代に生きる理論であり思想である。じっさいリカードウ・マルサス論争を基軸に展開された古典派経済学がその後の経済理論と経済思想に及ぼした影響は、一般に考えられているよりもはるかに広くて深い。

(2) 第1に、マーシャルからケインズ後にまでいたるケンブリッジの経済思想への影響がある。トイが強調するように、マーシャル以後の経済思想には「ケンブリッジ・ドクトリン」とでも呼びうる共通の認識が存在した(John Toye, *Keynes on Population*, 2000)。それは、ブリテンはリカードウが提唱する国際分業に依拠して経済成長を遂げたが、世界規模での農業の収穫逓減と工業の収穫逓増によって農産物に対する工業製品の交易条件が悪化し、その結果ブリテンの厚生水準が低下した、というものである。

(3) 第2に、1930年代のケンブリッジでは、ケインズによる有効需要の原理の発見とスラッファによる『リカードウ全集』の編集および古典派経済学研究が同時に進行し、この2人の影響を受けた「ケインズ後の古典派経済学」ともいべき一群の経済学が展開する。ロビンソン、カルドア、ガレニャーニ、パシネッティ、シロス-ラビーニ、ガルブレイスらの技術進歩や経済成長、産業構造、景気循環の理論にみられるように、直接・間接にケインズとスラッファをとおした古典派経済学の影響のもとに独自の経済学がうみだされたのである。

(4) 第3に、ケインズが自らの先駆者として見いだしたのは、リカードウに反駁してセー法則を否定し一般的過剰生産の可能性を主張したマルサスであった。しかし、古典派経済学の2つの異なる流れをきわだたせ、リカードウ・マルサス論争の歴史的意義を浮き彫りにしたのが、マルサスを高く評価したケインズとリカードウ研究に全力を傾けたスラッファであったのは、たんなる偶然ではない。大不況と戦争という混沌とした世界に立ち向かい時代の難問と格闘したケインズとスラッファの意図は、重層的に織りなされ複雑に交錯するマルサスとリカードウの言説を解きほぐし、古典派経済学のゆたかな理論像と思想像を描き出すことによって経済学の可能性を復権することにあつたと言える。本研究の問題意識もまた、ここにある。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、リカードウとマルサスとのあいだでくり広げられた論争が経済学にもたらした巨大な影響とその意義を、古典派経済学から現代にいたる経済学の歴史の全体にわたって研究し明らかにすることにある。リカードウ・マルサス論争が経済学に与えた影響は、マカロクやJ.-B.セーら同時代人、J.S.ミル、マルクスにとどまらない。それは、新古典派経済学やマーシャル以後のケンブリッジの経済学のほか、経済学の理論と思想の政策への適用や経済学の本質と目的をめぐる問題など、じつに広い範囲にわたっている。この総体を、国内外の研究者と協同で比較検討し、リカードウ・マルサス論争が経済学へ及ぼした影響とその現代的意義を国際的視点から解明する。

(2) 本研究は、科研費(基盤研究A)「リカードウが経済学に与えた影響とその現代的意義の総合的研究」(2010-2014年度)および日本学術振興会外国人研究者招へい事業(2015年度短期:「古典派経済学の現代性と多様性」Gilbert Faccarello (Universite Pantheon-Assas)による国際共同研究の成果をふまえ、それをさらに深化・発展させる。そのために、リカードウ・マルサス論争が経済学にもたらした巨大な影響とその現代的意義を究明するという新たな課題を設定し、これに取り組みその成果を英文論集等にまとめて公刊する。

(3) その後の経済学の主要な理論と思想の基盤を提供したリカードウ・マルサス論争の争点は、古典派経済学の確立の指標であるだけでなく、現代の経済学が直面する諸問題の考察に新たな視点と知見もたらす源泉でもある。10年をこえる国際共同研究での海外共同研究者との対話のなかからうみだされた本研究の課題は、古典派経済学の研究領域をいっそう押し広げ、経済学史研究の進展に寄与する役割を担うであろう。

3. 研究の方法

(1) リカードウ・マルサス論争が、同時代のマカロク、トレンズ、J.-B.セー、シスモンディ、J.ミル、ベンサム、その後につづくJ.S.ミル、マーシャル、マルクスなどのほか、新古典派経済学

やマーシャル以後のケンブリッジの経済学などにもたらした影響を検討し明らかにする。

(2) 貧困と救済、自由貿易と保護主義、財政・金融の理論と経済政策など、多くの分野にわたるリカードウ・マルサス論争の影響とその意義を解明する。

(3) 以上2つの課題は、経済理論や方法、経済政策やあるべき経済社会像をめぐるリカードウ・マルサス論争と重なりあい、相互に関連しあう。そのため、国内外の多様な研究者の参加と協力のもとに、多角的で総合的な視点から国際共同研究をすすめ、これらを全体として解き明かす必要がある。そこで、後の経済学へのマルサスの理論と思想の影響とその意義を明確にするため、マルサスの『人口論』および『経済学原理』の各言語圏への伝播と受容（拒絶）の特徴と異同を国際的な視点から比較検討し明らかにする。

(4) リカードウとマルサスをその構成員のひとりとする知の集団とネットワークの広がりを歴史的な視点と各言語圏の視点を交錯させながら明らかにする。とくに1821年に創立された経済学クラブやロンドン地質学協会をはじめ雑誌 *Edinburgh Review* やジュネーヴの *Bibliothèque Britannique* 周辺に集う多彩な人びとの知的交流は、リカードウ・マルサス論争のもうひとつの舞台であり、古典派経済学の理論と思想の展開に重要な役割をはたしたと考えられる。

(5) 上記研究課題に取り組み、現代の経済学に与えた古典派経済学の影響と意義を検証する。具体的には以下のようにすすめる。

国内外の研究協力者とともに国際カンファレンスとワークショップを毎年1-2回開催する。

その成果を英文論集と日本語の論集・著書にまとめて刊行し、日本の研究を国内外に発信する。

第一線の海外研究者との交流をとおして、日本の若手研究者はもちろん、世界の若手研究者の育成に努めるとともに、現代の経済学史研究の進展をはかる。

4. 研究成果

(1) リカードウ・マルサス論争を基軸とする古典派経済学の展開を跡づけ、その現代的意義を国際的な共同研究によって総合的に解明しようとする研究は、これまで国内外のどこにおいても行われたことがない。歴史の転換点に遭遇したリカードウとマルサスの論争の多岐にわたる争点は、古典派経済学の確立の指標であるだけでなく、人口問題や食糧生産、通貨・金融危機、グローバル化と経済統合、貧困と格差、移民と難民、統合と排除といった現代の経済学が直面する諸問題の考察に新たな視点と知見もたらず源泉でもある。

(2) リカードウ経済学を中心とした前回の科研費による国際共同研究の成果は、日本およびフランス、イギリスでの国際カンファレンスの開催や英文論集の刊行を通じて海外の研究者にも広く知られるようになり注目を集めている。これまでの研究成果に加え、本研究を日本の研究者が企画・提案し、海外の第一線の研究者と共同して取り組むことには、国際的な共同研究のいっそうの進展をはかり、国内外の若手研究者を育成するうえで、とくに重要な意義がある。

(3) 本研究を通じた個別の発表論文や著書および学会報告などの研究成果は、下記の研究成果一覧（雑誌論文、学会発表、図書）にゆずり、ここではコロナ禍をはさんで断続的に開催された国際カンファレンスと国際ワークショップを中心とする国際共同研究の成果をまとめた以下3冊の英文論集の概要を刊行順に示す。

Shigeyoshi Senga, Masatomi Fujimoto, Taichi Tabuchi (eds.) *Ricardo and International Trade*, Routledge, 2017.

これは、リカードウの国際貿易論に関する従来の研究と論争を批判的に再検討し、リカードウの主著『経済学および課税の原理』第7章「外国貿易について」の本来の意図と意義を明らかにしようとしたもので、Heinz D. Kurz, Christian Gehrke（オーストリア）、Roy J. Ruffin, Andrea Maneschi（アメリカ）、Neri Salvadori, Rodolfo Signorino（イタリア）、Gilbert Faccarello, Jerome de Boyer des Roches（フランス）と塩沢由典、服部正治、鳴瀬成洋、益永淳および編集者の千賀重義、藤本正富、田淵太一による国際共同研究の成果である。

リカードウが外国貿易論で提示したとされる「比較優位の原理」とその数値例は、20世紀半ばにサミュエルソンによって「4つ魔法の数字」と名づけられて以来、長いあいだ国際貿易や経済学史の教科書でくり返し解説されてきた。しかしそれらの標準的な解釈は、ジェイムズ・ミルとジョン・ステュアート・ミル父子によるリカードウの誤読と修正の産物であり、誤って「リカードウ・モデル」と呼ばれるようになったものである。リカードウ本来の「4つの数字」と「比較優位の原理」をスラッファの再評価とあわせて21世紀はじめに新たに解釈しなおしたのはラフィンであり、マネスキがそれにつづく。だが日本では約30年も先行して行沢健三が同様の理解を示していた（この事実はラフィンとマネスキによっても確認された）。

また、従来のリカードウ貿易論の議論の対象は『原理』第7章のわずか15%を占めるにすぎない「4つの数字」部分に限定されてきた。しかし第7章全体をみれば、リカードウが、貨幣を介して行われる交易には国内価格から区別された国際価格は存在しないと考えていた、「比較優

位」という言葉を貿易に関して使用したことはなかった、貨幣分配の変化を誘発する攪乱が各国に貨幣価値の相違をもたらし、それによる自然価格の変化を通じて貿易が行われる連続的過程を重視していた、ことが明らかとなる。こうしてリカードウ国際貿易論の標準的解釈の呪縛と因習を乗り越え、本来のリカードウ貿易論の構造と意義の解明へとすすむ本研究の成果は、世界的に大きな意味をもつ。

Gilbert Faccarello, Masashi Izumo and Hiromi Morishita (eds.) *Malthus Across Nations: The Reception of Thomas Robert Malthus in Europe, America and Japan*, Edward Elgar, 2020.

これは、18世紀末から第1次世界大戦までの、マルサスの人口論と経済学の各言語圏への伝播と受容およびその影響と意義を明らかにする試みである。リカードウ経済学の各言語圏への伝播と反響を解明しようとした Gilbert Faccarello and Masashi Izumo (eds.) *The Reception of David Ricardo in Continental Europe and Japan*, Routledge, 2014.の問題意識を継承し、マルサスの人口論と経済学の国際的な広がりとともに各言語圏(英語圏・フランス語圏・ドイツ語圏、イタリア語圏・スペイン語圏・ポルトガル語圏とロシア語および日本語)によって異なるその時代の社会問題の様相をも照らしだすことをめざした。Ryan Walter(オーストラリア)、David Andrews(アメリカ)、Gilbert Faccarello(フランス)、Christian Gehrke(オーストリア)、Daniera Donnini Maccio and Roberto Romani(イタリア)、Javier San Jurian Arrupe(スペイン)、Jose Luis Cardoso(ポルトガル)、Alexander Mendes Cunha(ブラジル)、Maxim Markov and Denis Melnik(ロシア)、それに Gilbert Faccarello とともに本書を編集した出雲雅志および森下宏美による国際共同研究の成果である。

マルサスは『人口論』(初版1798年)のほか『経済学原理』(初版1820年)などの著書を残したが、各国に衝撃を与えたのは『人口論』であった。等比級数的に増加する人口と等差級数的にしか増大しない食糧との関係を自然法則とみるマルサスの「人口原理」は、いたるところで奴隷制や移民、植民地化といった不幸で不正な歴史を正当化し、社会ダーウィニズムや優生思想と結びついて生存競争を是認し福祉を否認するイデオロギーとなる。しかしそれらは、貧困や悪徳を回避しようとするマルサスの実像と意図を離れた、その思想と理論の誤解と悪用であった。各言語圏によって濃淡はあるものの、マルサスは各国の時代と地域の固有の社会問題に関連づけられ、人口問題や神学、自由主義、社会主義、帝国主義などの教義や思想と複雑に接続しまたは交錯しながら、肯定的あるいは否定的に論じられることになったのである。

また、マルサスの人口論は、イギリスではディケンズ、フランスではゾラ、日本では柴四郎や坪内逍遙など、各国の代表的な文学作品にも登場し、多様な経路をとおして社会に浸透した。こうした各言語圏での多面的なマルサス受容史の研究が明らかにするのは、それぞれの時代の社会問題とそれに対応するマルサスの理論と思想の是非をめぐる歴史の様相だけではない。それは、現代社会が直面する貧困と格差、食糧と人口、環境問題をめぐる困難と課題を考察するうえで、想起し参照しなければならない視点と手がかりを示している。

Masatomi Fujimoto, John Vint, and Taro Hisamatsu (eds.) *James Mill, John Stuart Mill, and the History of Economic Thought*, Routledge, 2023.

これは、経済学の歴史に重要な位置を占めるジョン・ステュアート・ミルとその知的発展の初期に重大な影響を与えた父ジェームズ・ミルに関する研究成果をまとめたもので、Gregory Claeyns, Renee Prendergast, John Vint, Helen McCabe(イギリス)、Victor Bianchini, Gilbert Faccarello(フランス)、中井大介、小沢佳史、(故)諸泉俊介、出雲雅志、近藤真司と、John Vint とともに編集にあたった藤本正富と久松太郎による国際共同研究の成果である。

1989年を境に社会主義政権が次々に崩壊すると、マルクスやレーニンにかわる自由で民主的な社会を構想した社会主義理論・思想が模索され、ジョン・ステュアート・ミルへの関心が世界的に高まった。その結果、ミル父子に関する研究は政治・経済・哲学・ジェンダーなど多様な分野へ広がり、多くの著書があいついで出版されるようになる。本書は、従来のミル父子研究をふまえながら、「勝利」したはずの資本主義体制のもとで生じた経済危機や困難、貧困、格差、分断といった新たな時代の課題を念頭において、ミル父子の理論・思想をあらためて検討し、現代社会が直面する重要な課題に立ち向かう指標を探ろうとする試みである。

本書は「教養と教育」「功利主義」「国際関係と国際貿易」「研究と人生」の大きく4つの部分から構成され、各章が対象とする領域は、定常状態論や教育論、幸福計算論、財政論、比較生産費説、相互需要説、賃金論、社会主義論のほか、ハリエット・マーティノーとの関係やシジウィックとマーシャルへの影響など多岐にわたる。従来「リカードウ・モデル」と呼ばれてきた国際貿易の教科書にみられる標準的な「比較生産費説」はリカードウではなくジェームズ・ミルによる発見と創作であり、それがJ.S.ミルによって相互需要説とともに拡散されたことや、ミル父子とマルサスやリカードウ、ベンサム、トレズ、ペニントン、ロングフィールドといった同時代の経済学者・哲学者との理論的・思想的関係の多様性にも着目した。

また、自由と友愛、非暴力と競争を重視し、労働者と女性の権利を擁護して教育の重要性を説いたJ.S.ミルの思想は、ミル自身の功利主義にもとづく社会主義論や経済学に反映され、ヴィクトリア時代にアーツ・アンド・クラフツ運動を主導し多方面で活躍したウィリアム・モリスにも受け継がれる。こうした論点が、環境問題やジェンダー、ライフスタイル、教育、倫理、少数者の意見や権利の尊重といった今日の社会が直面する課題に直接・間接に結びつくことは明らかであろう。本書はジェームズ・ミルとジョン・ステュアート・ミルに関する最新の包括的な研究のひとつとして重要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計63件（うち査読付論文 23件 / うち国際共著 6件 / うちオープンアクセス 40件）

1. 著者名 Yagi Takashi	4. 巻 69
2. 論文標題 A Sraffian model of Pasinetti's natural economic system	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Structural Change and Economic Dynamics	6. 最初と最後の頁 46-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.strueco.2023.11.013	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satoshi Niimura	4. 巻 55
2. 論文標題 Adam Smith's Support for Big Government: Evolution of his Views on Government from Lectures on Jurisprudence to The Wealth of Nations	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Okayama Economic Review	6. 最初と最後の頁 25-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18926/OER/66734	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 福田進治	4. 巻 16
2. 論文標題 河上肇のリカード研究	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 人文社会科学論叢	6. 最初と最後の頁 163-183
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田淵太一	4. 巻 77
2. 論文標題 貨幣と国際価値をめぐるリカードウ、シーニア、J. S.ミル	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 立教経済学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石井 穰	4. 巻 77
2. 論文標題 「絶対価値と交換価値」研究史：戦後日本のリカードウ研究との関連で	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 立教経済学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木村 雄一	4. 巻 93
2. 論文標題 ライオネル・ロビンズの自由主義と福祉国家：ロビンズによるハイエク『自由の条件』の書評を手掛かりにして	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 商学集志	6. 最初と最後の頁 35-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 益永 淳	4. 巻 65
2. 論文標題 R. ジョーンズとT.C. パンフィールド：穀物自由貿易をめぐって	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 経済学論纂	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 有史	4. 巻 76
2. 論文標題 19世紀におけるウィリアム・ベティの「再発見」：スコットランド啓蒙の黄昏とリカードアンたち	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 立教経済学研究	6. 最初と最後の頁 59-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 新村聡	4. 巻 1195
2. 論文標題 福祉国家思想の先駆者としてのスミス：『国富論』における平等主義・公教育・累進税	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 11-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石井穰	4. 巻 287
2. 論文標題 「絶対価値と交換価値」とリカードウの不変の価値尺度	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 経済系	6. 最初と最後の頁 117～132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 八木尚志	4. 巻 92
2. 論文標題 アダム・スミスの自然価格と再生産：根岸のスミス・モデルと代替的モデル	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 政経論叢	6. 最初と最後の頁 98-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤敦之	4. 巻 40
2. 論文標題 現代貨幣理論の展開：内生的貨幣供給理論からの検討	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 信用理論研究	6. 最初と最後の頁 21-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹永進・田淵太一・若松直幸	4. 巻 64巻2号
2. 論文標題 研究動向：2000年代以降の国内外のリカードウ研究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 経済学史研究	6. 最初と最後の頁 45-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内藤敦之	4. 巻 54
2. 論文標題 『生政治の誕生』におけるネオ・リベラリズムの起源	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大月短大論集	6. 最初と最後の頁 23～57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八木尚志	4. 巻 91巻 5・6号
2. 論文標題 アダム・スミスの価値論：藤塚（1952）（1990）の説に焦点をあてて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 政経論叢	6. 最初と最後の頁 212～237
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ando Yusuke, Kubo Shin	4. 巻 64
2. 論文標題 Translation: Takumi Tsuda, Antagonism between Free Trade and Protectionism	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The History of Economic Thought	6. 最初と最後の頁 1～28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5362/jshet.64.1_1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木村雄一	4. 巻 92巻3号
2. 論文標題 ジェイコブ・ヴァイナーと国際経済秩序：ブレトンウッズとその後	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 商学集志	6. 最初と最後の頁 31～53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 久松太郎	4. 巻 74巻2号
2. 論文標題 「ぬれぎぬ問題」再考	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 同志社商学 = Doshisha Shogaku (The Doshisha Business Review)	6. 最初と最後の頁 347～381
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14988/00029312	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 久松 太郎	4. 巻 74巻1号
2. 論文標題 比較優位と貿易利益：ジェームズ・ミルとウィリアム・エリス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 同志社商学 = Doshisha Shogaku (The Doshisha Business Review)	6. 最初と最後の頁 71～112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14988/00029052	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田淵太一	4. 巻 64巻2号
2. 論文標題 N. シーニアの貨幣論と国際価値論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 高崎経済大学論集	6. 最初と最後の頁 45～57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Taichi Tabuchi and Taro Hisamatsu	4. 巻 -
2. 論文標題 International Trade	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Routledge Historical Resources (History of Economic Thought)	6. 最初と最後の頁 1~11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781138201521-HET24-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田淵太一	4. 巻 74巻2号
2. 論文標題 「4つの数字」の魔力：リカード貿易理論の新展開	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 同志社商学	6. 最初と最後の頁 85~113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内藤敦之	4. 巻 59巻1号
2. 論文標題 コロナ禍の日本経済：ポスト・ケインジアン視点からのマクロ経済分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 季刊 経済理論	6. 最初と最後の頁 4~13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田進治	4. 巻 12
2. 論文標題 福田徳三のリカード研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人文社会科学論叢	6. 最初と最後の頁 179-193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kubo Shin, Hagemann Harald	4. 巻 82 (1)
2. 論文標題 Schumpeter 's Unknown Commentary on the Great Depression: An Annotated Translation from the Japanese Text	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 History of Economics Review	6. 最初と最後の頁 15-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10370196.2022.2033669	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kubo Shin	4. 巻 54 (2)
2. 論文標題 From a Reformist Professor to a "Mouthpiece" for Capital: Tsunao Miyajima in an International Context	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 History of Political Economy	6. 最初と最後の頁 103-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1215/00182702-9699068	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野原慎司	4. 巻 9 (2)
2. 論文標題 サン・ピエールにおける戦争・平和・商業、そしてルソーへ：「啓蒙」の構図を捉え直す	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経済学研究	6. 最初と最後の頁 89-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久松太郎	4. 巻 73 (5)
2. 論文標題 リカード価値論再考	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 同志社商学	6. 最初と最後の頁 141-174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 久松太郎	4. 巻 74 (1)
2. 論文標題 比較優位と貿易利益：ジェームズ・ミルとウィリアム・エリス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 同志社商学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木村雄一	4. 巻 91 (2)
2. 論文標題 ジェイコブ・ヴァイナーとキリスト教の経済思想：社会秩序における摂理の役割，ウェーバー・テーゼ批判	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 商学集志	6. 最初と最後の頁 47-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 新村 聡	4. 巻 52
2. 論文標題 スミスは富の原因がいくつかあると考えたか：『法学講義』行政論と『国富論』の理論構成の比較	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岡山大学経済学会雑誌	6. 最初と最後の頁 15～29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18926/OER/61450	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Chapeskie Robert、Kubo Shin、Mastuyama Naoki	4. 巻 63
2. 論文標題 English Translation Series: Japanese Historians of Economic Thought 12 Tadashi Hayasaka, Alfred Marshall, England's Industrial Leadership and Pure Theory	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The History of Economic Thought	6. 最初と最後の頁 23-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kubo Shin	4. 巻 40
2. 論文標題 Hirofumi Uzawa: Between Minamata and Cambridge	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Contributions to Political Economy	6. 最初と最後の頁 75 ~ 79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/cpe/bzab001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 若松直幸	4. 巻 58 (3)
2. 論文標題 リカードウ課税論の限界：税の長期的効果の分析をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊 経済理論	6. 最初と最後の頁 74-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤真司	4. 巻 97
2. 論文標題 マーシャルの産業の経済学：『産業と商業』100周年に寄せて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 兵庫県立大学政策科学研究叢書	6. 最初と最後の頁 29-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内藤敦之	4. 巻 51
2. 論文標題 フーコーのネオ・リベラリズム分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大月短大論集	6. 最初と最後の頁 97-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Atsushi Naito	4. 巻 2
2. 論文標題 Nominality of Money: Theory of Credit Money and Chartalism	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Review of Keynesian Studies	6. 最初と最後の頁 122-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34490/revkeystud.2.0_122	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森下宏美	4. 巻 57 (3)
2. 論文標題 「サブノート」と『資本論』: 本源的蓄積論の執筆と「サブノートB」との関連を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季刊 経済理論	6. 最初と最後の頁 18-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Taro Hisamatsu	4. 巻 60 (2)
2. 論文標題 Reconsidering Ricardo on Taxation	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済学史研究	6. 最初と最後の頁 97-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Taro Hisamatsu	4. 巻 11
2. 論文標題 Thomas Robert Malthus and His Unrealized Edition of Adam Smith's The Wealth of Nations	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Adam Smith Review	6. 最初と最後の頁 281-296
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Shinji Nohara	4. 巻 11
2. 論文標題 Adam Smith's science of commerce: the effect of communication	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Adam Smith Review	6. 最初と最後の頁 338-352
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Shinji Nohara	4. 巻 11
2. 論文標題 Adam Smith's Library: recent work on his books and marginalia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Adam Smith Review	6. 最初と最後の頁 355-377
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 木村雄一	4. 巻 89 (3)
2. 論文標題 ジェイコブ・ヴァイナーとニューディール	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 商学集志	6. 最初と最後の頁 15-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福田進治	4. 巻 7
2. 論文標題 日本のリカード研究の独自性と多様性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文社会科学論叢	6. 最初と最後の頁 139-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Jou Ishii	4. 巻 60 (1)
2. 論文標題 J. R. McCulloch on the Effect of Machinery	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済学史研究	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Taichi Tabuchi	4. 巻 60 (1)
2. 論文標題 Ricardo's Theory of Value and International Trade: on the Invalidity of the Alleged 'Labour Theory of Value'	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済学史研究	6. 最初と最後の頁 79-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田淵太一・久松太郎	4. 巻 69
2. 論文標題 リカードはリカード・モデルを提示したのか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際経済	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5652/kokusaikeizai.kk2018.01.t	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内藤敦之	4. 巻 60 (1)
2. 論文標題 J. Halevi, G. C. Harcourt, P. Kriesler, and J. W. Neville, Post-Keynesian Essays from Down Under: Theory and Policy in an Historical Context (4 vols., 2016) をめぐって: ポスト・ケインジアンにおける達成: カレツキ, オーストラリア, 理論と政策を軸として	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済学史研究	6. 最初と最後の頁 141-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井 稔	4. 巻 273
2. 論文標題 ジョン・バートンにおける人口と植民論	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済系	6. 最初と最後の頁 97-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井 稔	4. 巻 40
2. 論文標題 真実一男と経済学導入史	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 関東学院大学経済経営研究所年報	6. 最初と最後の頁 54-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井 稔	4. 巻 27
2. 論文標題 ジョン・バートンの穀物法論とマルサス	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 マルサス学会年報	6. 最初と最後の頁 31-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田進治	4. 巻 27
2. 論文標題 菱山泉『リカード』の再検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 マルサス学会年報	6. 最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤敦之	4. 巻 49
2. 論文標題 ミンスキーと流動性選好	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大月短大論集	6. 最初と最後の頁 25-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 木村雄一	4. 巻 87 (2/3)
2. 論文標題 J. ヴァイナーと国際貿易：自由貿易、関税同盟、古典的自由主義	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 商学集志	6. 最初と最後の頁 19-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木村雄一	4. 巻 36
2. 論文標題 小学校社会科教育における“経済教育”とゲームの活用：江戸川区こども未来館での「経済ゼミ」での事例を参考に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 経済教育	6. 最初と最後の頁 26-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森下宏美	4. 巻 65 (4)
2. 論文標題 マルクス「1861-63年草稿」ノート第XX-XXIII冊「追補」と『資本論』関連諸草稿	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊北海学園大学経済論集	6. 最初と最後の頁 129-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shin Kubo	4. 巻 71 (1)
2. 論文標題 A Note on Seven Letters from Piero Sraffa to Tsuneo Hori, Chief Editor of the Japanese Translation of Ricardo's Works and Correspondence	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Economics of Kwansai Gakuin University	6. 最初と最後の頁 165-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 益永淳	4. 巻 58 (1)
2. 論文標題 19世紀初頭のイギリス穀物法論争の一側面：ジェイムズ・ミル、ホーナー、マルサス	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 経済学論纂	6. 最初と最後の頁 45-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 八木尚志	4. 巻 71 (1)
2. 論文標題 スラッファ体系の解釈	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 経済学論究	6. 最初と最後の頁 25-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計95件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 41件)

1. 発表者名 Yuichi Kimura
2. 発表標題 James Edward Meade on Liberal Socialism: Social Dividend, Property Democracy, Agathotopia
3. 学会等名 The 27th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Tabuchi Taichi
2. 発表標題 J. S. Mill's Reciprocal Demand Theory Revisited
3. 学会等名 The 27th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Takashi Yagi
2. 発表標題 Smith and Sraffa on commodity prices and their standard
3. 学会等名 The 27th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Shinji Nohara
2. 発表標題 Economic Policy in Hume's History of England
3. 学会等名 The 27th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Naoyuki Wakamatsu
2. 発表標題 The Theoretical Succession from Ricardo to J. S. Mill: The Arguments of the Growth Paths of Wages
3. 学会等名 The 27th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Joh Ishii
2. 発表標題 Rich Country-Poor Country Debate and John Barton
3. 学会等名 International Workshop on Classical Political Economy 2024 (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Naoyuki Wakamatsu
2. 発表標題 The Growth Paths of Wages in Ricardo and J.S. Mill: the arguments of tax theories
3. 学会等名 International Workshop on Classical Political Economy 2024 (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Takashi Yagi
2. 発表標題 Smith, Ricardo and Sraffa: A Note
3. 学会等名 International Workshop on Classical Political Economy 2024 (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Taichi Tabuchi
2. 発表標題 Ricardo, Senior and Stirling on Money and International Values
3. 学会等名 The 26th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田淵太一
2. 発表標題 リカードウの外国貿易論
3. 学会等名 経済学史学会第87回全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小沢佳史
2. 発表標題 J. S. ミルにおける経済学の進歩とリカードウ
3. 学会等名 経済学史学会第87回全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 若松直幸
2. 発表標題 リカードウの方法
3. 学会等名 経済学史学会第87回全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 八木尚志
2. 発表標題 不変の価値尺度の意義
3. 学会等名 経済学史学会第87回全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小沢佳史
2. 発表標題 経済学史・経済思想史からの報告（シンポジウム 「J. S. ミル研究の現状と意義：没後150周年記念」）
3. 学会等名 日本イギリス哲学会第47回研究大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 八木尚志
2. 発表標題 アダム・スミスの価値論とスラッファの価格体系
3. 学会等名 第48回リカードウ研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 福田進治
2. 発表標題 河上肇のリカード研究
3. 学会等名 第48回リカードウ研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Masatomi Fujimoto
2. 発表標題 Genealogy of the Theory of Reciprocal Demand up to J. S. Mill 's Basic Model
3. 学会等名 International Workshop on Classical Political Economy 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Taro Hisamatsu and Nobuhiko Nakazawa
2. 発表標題 T. R. Malthus ' s Investigation of the Cause of the Present High Price of Provisions (1800) and Amartya Kumar Sen
3. 学会等名 International Workshop on Classical Political Economy 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yuji Sato
2. 発表標題 Rediscovering William Petty: The Ricardians and the Birth of the History of Political Economy
3. 学会等名 Ricardo session at the International Conference on Economic Theory and Policy (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Naoyuki Wakamatsu
2. 発表標題 Theoretical succession from Ricardo to J. S. Mill: the arguments of taxes on wages
3. 学会等名 Ricardo session at the International Conference on Economic Theory and Policy (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 石井穰
2. 発表標題 「絶対価値と交換価値」研究史：戦後日本のリカードウ研究との関連で
3. 学会等名 経済理論学会第71回全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 新村聡
2. 発表標題 アダム・スミスの大きな政府論：金融規制・公教育・累進税
3. 学会等名 東京経済大学アダム・スミス生誕300年記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 出雲雅志
2. 発表標題 スミスを継いだマルサスとリカードウから受け継ぐもの
3. 学会等名 東京経済大学アダム・スミス生誕300年記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 内藤敦之
2. 発表標題 ポスト・ケインジアン金融政策論：インフレーション目標政策から非伝統的金融政策までの評価
3. 学会等名 進化経済学会第27回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 八木尚志
2. 発表標題 アダム・スミスの自然価格と再生産：根岸モデルと代替理論
3. 学会等名 第47回リカードウ研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 出雲雅志
2. 発表標題 J. S. ミルの賃金論とリカードウ：諸泉俊介「ミル賃金論の基本構造：リカードウとの共通性を手掛かりに」（遺稿）によせて
3. 学会等名 第47回リカードウ研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Taichi Tabuchi
2. 発表標題 N. Senior on Money and International Values
3. 学会等名 The 25th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 八木尚志
2. 発表標題 アダム・スミスの価値論に関する藤塚説の検討
3. 学会等名 経済学史学会第86回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石井穰
2. 発表標題 「絶対価値と交換価値」に於ける不変の価値尺度
3. 学会等名 経済学史学会第86回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 近藤真司
2. 発表標題 労働者階級の将来をめぐる経済学説
3. 学会等名 経済学史学会第86回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石井穰
2. 発表標題 「絶対価値と交換価値」とリカードウの不变の価値尺度
3. 学会等名 経済理論学会第70回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 内藤敦之
2. 発表標題 現代貨幣理論の展開
3. 学会等名 信用理論研究学会2022年度春季大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 八木尚志
2. 発表標題 リカーディアンの分配理論
3. 学会等名 第46回リカードウ研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福田進治
2. 発表標題 福田徳三のリカード研究
3. 学会等名 第46回リカードウ研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤有史
2. 発表標題 19世紀におけるウィリアム・ベティの「再発見」：ド・クインシーとマカロックの貢献について
3. 学会等名 第45回リカードウ研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 若松直幸
2. 発表標題 リカードウ課税論の限界：税の長期的効果の分析をめぐって
3. 学会等名 第44回リカードウ研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田淵太一
2. 発表標題 貿易理論史の転換点：シーニアvsトレンズ論争の意義
3. 学会等名 日本国際経済学会関西支部研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 内藤敦之
2. 発表標題 コロナ禍の日本経済：ポスト・ケインジアンからのマクロ経済分析
3. 学会等名 経済理論学会第69回大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木村雄一
2. 発表標題 木村雄一著『カルドア 技術革新と分配の経済学』（名古屋大学出版会）をめぐって
3. 学会等名 ケインズ学会関西支部
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 近藤真司、松山直樹、船木恵子
2. 発表標題 アリー・マーシャルの自伝（松山直樹訳）『想い出すこと』（晃洋書房）をめぐって
3. 学会等名 経済社会学会西部支部
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 新村聡
2. 発表標題 スミスは富の原因がいくつあると考えたか：『法学講義』行政論と『国富論』の理論構成の比較
3. 学会等名 経済学史学会第85回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤本正富
2. 発表標題 J.S.ミルの関税論
3. 学会等名 経済学史研究会第255回例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 新村聡
2. 発表標題 スミスはなぜ自然的自由の規制を支持するようになったか：2回の金融危機と金融規制策の形成過程
3. 学会等名 第43回リカードウ研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 新村聡
2. 発表標題 スミスは富の原因がいくつかあると考えたか：『法学講義』行政論と『国富論』の理論構成の比較
3. 学会等名 第42回リカードウ研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小沢佳史
2. 発表標題 J. S. ミルの対外政策論の展開：『代議制統治論』草稿資料の分析
3. 学会等名 経済学史学会西南部会第129回例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石井 穰
2. 発表標題 リカードウの価値修正論と資本蓄積論
3. 学会等名 第41回リカードウ研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shin Kubo
2. 発表標題 Tsunao Miyajima (1884-1965): From a Professor of Economics to Employers' Representative
3. 学会等名 The 23rd annual conference of the European Society for the History of Economic Thought (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shin Kubo
2. 発表標題 Reforming Political Economy using Statistics: The Words and Deeds of Quetelet and Whewell
3. 学会等名 The 46th annual conference of the History of Economics Society (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shin Kubo
2. 発表標題 Tsunao Miyajima (1884-1965): From a Professor of Economics to Employers' Representative
3. 学会等名 The 32nd annual conference of History of Economic Thought Society of Australia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤有史
2. 発表標題 古典派貨幣理論の前提：スミスからリカードウへ
3. 学会等名 経済学史学会第83回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤有史
2. 発表標題 古典派国際調整論についての研究ノート
3. 学会等名 第40回リカードウ研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 益永淳
2. 発表標題 リカードウ地代論の発展：『利潤論』から『原理』最終章へ
3. 学会等名 第39回リカードウ研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 八木尚志
2. 発表標題 アダム・スミスの価値と再生産：集計された生産物と労働からなる経済モデルにおいて
3. 学会等名 第39回リカードウ研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福田進治
2. 発表標題 日本のリカード研究の独自性と多様性
3. 学会等名 第30回経済学史学会東北部会例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内藤敦之
2. 発表標題 表券主義の貨幣理論：マクロ経済システムと政策的論点
3. 学会等名 第9回ケインズ学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 OZAWA Yoshifumi
2. 発表標題 John Stuart Mill on “Large Exceptions to Laisser-Faire”
3. 学会等名 Kyoto Conference 2019 on James Mill and John Stuart Mill/ Classical Political Economy (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satoshi Fujimura
2. 発表標題 Nassau William Senior and the Workhouse
3. 学会等名 Kyoto Conference 2019 on James Mill and John Stuart Mill/ Classical Political Economy (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Taro Hisamatsu
2. 発表標題 On the Ricardian Model of International Trade
3. 学会等名 Kyoto Conference 2019 on James Mill and John Stuart Mill/ Classical Political Economy (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuji Sato
2. 発表標題 On Some Premises of Classical Monetary Theory
3. 学会等名 International Workshop on Classical Monetary Theory 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Atsushi Naito
2. 発表標題 Nominality of Money: Theory of Credit Money and Chartalism
3. 学会等名 International Workshop on Classical Monetary Theory 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井穰
2. 発表標題 カウツキーと歴史の人口法則
3. 学会等名 経済思想研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masashi Izumo and Hiromi Morishita
2. 発表標題 Malthus in Japan in the late nineteenth and early twentieth centuries
3. 学会等名 Sapporo Conference 2018 on Malthus (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Jou Ishii
2. 発表標題 John Barton's View on Moral Restraint and Agriculturism
3. 学会等名 The 31st annual conference of the History of Economic Thought Society in Australia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Jou Ishii
2. 発表標題 Economic Development and Economics in Japan from 1870-1940
3. 学会等名 Workshop on the Development of Peripheral Economies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小沢佳史
2. 発表標題 J. S. ミルの属国政策論：19世紀のブリテン中央政府の軍事財政を巡って
3. 学会等名 ミル研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Taichi Tabuchi
2. 発表標題 Kiyoshi Kojima on International Equilibrium: A Unification of Ricardo's Value Theory and Keynes's Theory of Efficiency Wages'
3. 学会等名 The 22nd Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Atsushi Masunaga
2. 発表標題 The Economic Teaching of Richard Jones at the East India College
3. 学会等名 The 22nd Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内藤敦之
2. 発表標題 貨幣の名目性：表券主義の貨幣理論
3. 学会等名 第8回ケインズ学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 益永淳
2. 発表標題 エドワード・ウェストの穀物法論：その理論構造と学説史的位
3. 学会等名 第28回マルサス学会全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takashi Yagi
2. 発表標題 Industrial Structure of French Industries
3. 学会等名 International Conference on Economic Theory and Policy (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takashi Yagi
2. 発表標題 Japanese Industries under Abenomics
3. 学会等名 International Conference on Economic Theory and Policy (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshifumi Ozawa
2. 発表標題 John Stuart Mill on Britain's Dependencies: From the Viewpoint of its Public (and Military) Expenditure
3. 学会等名 Kyoto Conference on Classical Political Economy (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akihito Matsumoto
2. 発表標題 James Mill on Joseph Priestley and Thomas Reid
3. 学会等名 Kyoto Conference on Classical Political Economy (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Satoshi Fujimura
2. 発表標題 The Educational Thought of N.W. Senior
3. 学会等名 Kyoto Conference on Classical Political Economy (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shinji Nohara
2. 発表標題 Adam Smith on Markets
3. 学会等名 Kyoto Conference on Classical Political Economy (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuji Sato
2. 発表標題 On the Smithian Theory of Substitution of Paper for Gold
3. 学会等名 International Workshop on Classical Monetary Theory 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuichi Kimura
2. 発表標題 Nicholas Kaldor's Policies and Social Views through Theories and Policies Compared with those of Liberal Economists such as Friedman, Robbins and Viner
3. 学会等名 The 44th Annual Meetings of the History of Economics Society (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shin Kubo
2. 発表標題 Reforming Political Economy using Statistics: The Words and Deeds of Quetelet and Whewell
3. 学会等名 The 21st annual conference of the European Society for the History of Economic Thought (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Jou Ishii
2. 発表標題 John Barton on the Corn Laws and Malthus
3. 学会等名 The 49th annual conference of UK History of the Economic Thought Society (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yuji Sato
2. 発表標題 Ricardo's criticism of Adam Smith: A defense
3. 学会等名 International Ricardo Conference 'The 200th Anniversary of Ricardo's Principles' (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Taichi Tabuchi
2. 発表標題 Ricardo's Theory of Value and International Trade: On the invalidity of the alleged 'labour theory of value'
3. 学会等名 International Ricardo Conference 'The 200th Anniversary of Ricardo's Principles' (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井 穰
2. 発表標題 パートンの穀物法論とマルサス
3. 学会等名 第27回マルサス学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福田進治
2. 発表標題 菱山泉『リカード』の再検討
3. 学会等名 第27回マルサス学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takashi Yagi
2. 発表標題 An Invariable Standard of Value and Its Application to Empirical Analysis
3. 学会等名 International Conference on Economic Theory and Policy (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takashi Yagi
2. 発表標題 Multi-Regional Comparison of Chinese Industries
3. 学会等名 International Conference on Economic Theory and Policy (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤有史
2. 発表標題 アダム・スミスの通貨と銀行の理論についての近年の諸解釈について
3. 学会等名 第36回リカードウ研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 若松直幸
2. 発表標題 リカードウとマルサスの国債政策論争再考：リカードウの短期国債論をめぐって
3. 学会等名 第36回リカードウ研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 久保真
2. 発表標題 堀経夫宛スラッフア書簡7通(1933-1965)について
3. 学会等名 第35回リカードウ研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 八木尚志
2. 発表標題 スラッフア体系の解釈と拡張について
3. 学会等名 第35回リカードウ研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 久松太郎
2. 発表標題 ロバート・トレンズと比較優位の原理
3. 学会等名 第35回リカード研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Masatomi Fujimoto
2. 発表標題 J. S. Mill 's Analysis for Tariffs and Criticism for Robert Torrens ' Reciprocity
3. 学会等名 第81回経済学史学会全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田淵太一
2. 発表標題 リカード貿易論の現在：『原理』第7章でリカードは「比較優位の原理」を展開したのか？
3. 学会等名 第81回経済学史学会全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田淵太一・久松太郎
2. 発表標題 リカードはリカード・モデルを提示したのか
3. 学会等名 第76回日本国際経済学会全国大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計24件

1. 著者名 Masatomi Fujimoto, Taro Hisamatsu, Yoshifumi Ozawa, Shunsuke Moroizumi, Masashi Izumo, Masashi Kondo, John Vint, Gregory Claeys, Renee Prendergast, Victor Bianchini, Daisuke Nakai, Gilbert Faccarello, Helen McCabe	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 262
3. 書名 James Mill, John Stuart Mill, and the History of Economic Thought	

1. 著者名 Akihito Matsumoto, Shinji Nohara, Daisuke Arie, Masataka Okubo, Naoki Yajima, Toshinari Mizuno, Masahiro Kimiya, Hiroyuki Ota, Shuma Yoshida, Shinichi Nagao	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Springer Singapore	5. 総ページ数 200
3. 書名 Joseph Butler: A Preacher for Eighteenth-Century Commercial Society	

1. 著者名 小沢佳史、近藤真司、柳田芳伸、古谷豊、柳沢哲哉、石田教子、尾崎邦博、仲北浦淳基	4. 発行年 2023年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 280
3. 書名 愉楽の経済学：マルサスの思想的水脈を辿って	

1. 著者名 松本哲人、藤村哲史、久保真、若松直幸、中澤信彦、中井大介、只腰親和、廣瀬弘毅、原谷直樹、石田教子、佐々木憲介	4. 発行年 2023年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 288
3. 書名 経済学史入門：経済学方法論からのアプローチ	

1. 著者名 森下宏美、平岡祥孝、宮地晃輔、南島和久、他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 創成社	5. 総ページ数 214
3. 書名 英国の諸相：イギリスの政治・経済・社会	

1. 著者名 木村雄一、益永淳、瀬尾崇	4. 発行年 2022年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 282
3. 書名 学ぶほどおもしろい 経済学史	

1. 著者名 野原慎司	4. 発行年 2022年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 336
3. 書名 人口の経済学：平等の構想と統治をめぐる思想史	

1. 著者名 野原慎司、篠原久、只腰親和、田中秀夫、坂本達哉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 502
3. 書名 イギリス思想家書簡集 アダム・スミス	

1. 著者名 木村雄一、関谷喜三郎、池野秀弘、大島考介、安田武彦	4. 発行年 2022年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 170
3. 書名 はじめて学ぶ経済学 第3版	

1. 著者名 小沢佳史、新村聡、田上孝一、中村宗之、山崎聡、平井俊顕、後藤玲子、板井広明、玉手慎太郎、他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 社会評論社	5. 総ページ数 392
3. 書名 平等の哲学入門	

1. 著者名 福田進治、小峯敦、古谷豊、下平裕之、船木恵子、松山直樹、仲北浦淳基、金井辰郎、斉藤尚、岸見太一、大槻忠史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 244
3. 書名 テキストマイニングから読み解く経済学史	

1. 著者名 近藤真司、松山直樹、船木恵子、メアリー・ベイラー・マーシャル	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 176
3. 書名 想い出すこと：ヴィクトリア時代と女性の自立	

1. 著者名 野原慎司	4. 発行年 2020年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 224
3. 書名 戦後経済学史の群像	

1. 著者名 Gilbert Faccarello, Masashi Izumo, Hiromi Morishita et al.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Edward Elgar	5. 総ページ数 480
3. 書名 Malthus Across Nations The Reception of Thomas Robert Malthus in Europe, America and Japan	

1. 著者名 Masashi Izumo, Yuji Sato, Susumu Takenaga, M.C. Marcuzzo et al.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 424
3. 書名 New Perspective on Political Economy and Its History	

1. 著者名 木村雄一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 256
3. 書名 カルドア 技術革新と分配の経済学	

1. 著者名 Joh Ishii, Estrella Trincado, Andres Lazzarini, Denis Melnik et al.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 306
3. 書名 Ideas in the History of Economic Development: The Case of Peripheral Countries	

1. 著者名 森下宏美、石井穰、柳田芳伸、姫野順一、柳沢哲哉、田中育久男、伊藤栄晃、藤田祐、光永雅明、山崎好裕	4. 発行年 2019年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 344
3. 書名 知的源泉としてのマルサス人口論	

1. 著者名 小沢佳史、田上孝一、他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 社会評論社	5. 総ページ数 269
3. 書名 支配の政治理論	

1. 著者名 Shinji Nohara	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 192
3. 書名 Commerce And Strangers In Adam Smith	

1. 著者名 松本哲人、久保真、只腰親和、佐々木憲介、他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 蒼天社出版	5. 総ページ数 380
3. 書名 経済学方法論の多元性：歴史的視点から	

1. 著者名 Shigeyoshi Senga, Masatomi Fujimoto, Taichi Tabuchi et al.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 286
3. 書名 Ricardo and International Trade	

1. 著者名 Taichi Tabuchi, Yoshinori Shiozawa et al.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 303
3. 書名 A New Construction of Ricardian Theory of International Values: Analytical and Historical Approach	

1. 著者名 Masashi Izumo, Jose Luis Cardoso, Heinz D. Kurz, Philippe Steiner et al.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 266
3. 書名 Economic Analyses in Historical Perspective	

〔産業財産権〕

〔その他〕

リカードウ研究会
<https://www.ricardosociety.com/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	新村 聡 (Niimura Satoshi) (00167561)	岡山大学・社会文化科学研究科・特命教授 (15301)	
研究分担者	福田 進治 (Fukuda Shinji) (00322925)	弘前大学・人文社会科学部・教授 (11101)	
研究分担者	益永 淳 (Masunaga Atsushi) (00384727)	中央大学・経済学部・教授 (32641)	
研究分担者	石井 穰 (Ishii Joh) (10587629)	関東学院大学・経済学部・教授 (32704)	
研究分担者	久保 真 (Kubo Shin) (30276399)	関西学院大学・経済学部・教授 (34504)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤本 正富 (Fujimoto Masatomi) (30330103)	大阪学院大学・経済学部・教授 (34403)	
研究分担者	野原 慎司 (Nohara Shinji) (30725685)	東京大学・大学院経済学研究科（経済学部）・准教授 (12601)	
研究分担者	内藤 敦之 (Naito Atsushi) (40461868)	大月短期大学・経済科・教授（移行） (43502)	
研究分担者	田淵 太一 (Tabuchi Taichi) (50242136)	同志社大学・商学部・教授 (34310)	
研究分担者	近藤 真司 (Kondo Masashi) (50264817)	大阪府立大学・経済学研究科・教授 (24403)	
研究分担者	若松 直幸 (Wakamatsu Naoyuki) (50847340)	中央大学・経済学部・助教 (32641)	
研究分担者	佐藤 有史 (Sato Yuji) (60288256)	立教大学・経済学部・特別専任教授 (32686)	
研究分担者	久松 太郎 (Hisamatsu Taro) (60550986)	同志社大学・商学部・教授 (34310)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松本 哲人 (Matsumoto Akihito) (70735828)	松山大学・経済学部・教授 (10102)	
研究分担者	木村 雄一 (Kimura Yuichi) (80436740)	日本大学・商学部・教授 (32665)	
研究分担者	小沢 佳史 (Ozawa Yoshifumi) (80772095)	立正大学・経済学部・専任講師 (32687)	
研究分担者	森下 宏美 (Morishita Hiromi) (90191022)	北海学園大学・経済学部・教授 (30107)	
研究分担者	八木 尚志 (Yagi Takashi) (90261825)	明治大学・政治経済学部・専任教授 (32682)	
研究分担者	藤村 哲史 (Fujimura Satoshi) (70845247)	大東文化大学・経済学部・講師 (32636)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	千賀 重義 (Senga Shigeyoshi)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	佐藤 滋正 (Sato Shigemasa)		
研究協力者	竹永 進 (Takenaga Susumu)		
研究協力者	長峰 章 (Nagamine Akira)		
研究協力者	渡会 勝義 (Watarai Katsuyoshi)		
研究協力者	諸泉 俊介 (Moroizumi Shunsuke)		
研究協力者	服部 正治 (Hattori Masaharu)		
研究協力者	水田 健 (Mizuta Ken)		
研究協力者	安藤 裕介 (Ando Yusuke)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	山尾 忠弘 (Yamao Tadahiro)		
研究協力者	藤田 祐 (Fujita Yuh)		
研究協力者	- - (Faccarello Gilbert)		
研究協力者	- - (Boyer des Roches Jerome)		
研究協力者	- - (Arrupe Javier San Julian)		
研究協力者	- - (Gomez Betancourt Rebeca)		
研究協力者	- - (Silvant Claire)		
研究協力者	- - (Gehrke Christian)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	-- -- (Smith Matthew)		
研究協力者	-- -- (Bianchini Victor)		
研究協力者	-- -- (Melnik Denis)		
研究協力者	-- -- (Vint John)		
研究協力者	-- -- (Potier Jean-Pierre)		
研究協力者	-- -- (Marcuzzo Maria Cristina)		
研究協力者	-- -- (Claeys Gregory)		
研究協力者	-- -- (Prendergast Renee)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	— — (Laskaridis Christina Charikleia)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計7件

国際研究集会 International Workshop on Classical Political Economy 2024	開催年 2024年～2024年
国際研究集会 Ricardo session at the International Conference on Economic Theory and Policy	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 International Workshop on Classical Political Economy 2023	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 Kyoto Conference 2019 on James Mill and John Stuart Mill / Classical Political Economy	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Sapporo Conference 2018 on Malthus	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Kyoto Conference on Classical Political Economy	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 International Ricardo Conference “The 200th anniversary of Ricardo’s Principles”	開催年 2017年～2017年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
オーストリア	University of Graz			
フランス	Universite Pantheon-Sorbonne	Universite Lumiere Lyon 2	Universite Pantheon-Assas	他3機関
スペイン	Universitat de Barcelona			
インド	Azim Premji University			
イタリア	University of Eastern Piedmont Amedeo	University of Teramo	University of Pisa	他2機関
トルコ	Middle East Technical University			
英国	University of London	Queen’s University Belfast	University of Nottingham	他1機関

共同研究相手国	相手方研究機関			
オーストラリア	University of Queensland	University of Sydney	La Trobe University	
ブラジル	Federal University of Minas Gerais			
ロシア連邦	Saint Petersburg State University	Higher School of Economics University		
ポルトガル	University of Lisbon			
米国	Trinity University	State University of New York at Oswego		